

コロナ感染、厚労相「増加に転じた」 第8波可能性高く

2022年10月20日日本経済新聞



加藤勝信厚生労働相は20日、全国の新型コロナウイルスの新規感染者数が足元で「増加に転じている」との見方を示した。病床使用率は低下傾向にあるものの、重症者数や死亡者数は下げ止まっているとして感染再拡大に警戒感を示した。

厚労省に新型コロナ対策を助言する専門家組織「アドバイザリーボード」の会合で述べた。加藤氏は19日までの1週間の新規感染者数が前週比で1.35倍になっていると指摘し、「先週の連休の影響にも留意が必要だが、増加に転じている」と述べた。

同会合で厚労省は沖縄県を除く46都道府県で増加に転じているとの集計結果を示した。座長を務める脇田隆字・国立感染症研究所長は増加の要因として、免疫力の低下や旅行などによる接触機会の増加を挙げた。

厚労省によると1週間の新規感染者数が増加に転じたのは約2カ月ぶり。脇田座長は「増加の速度や増加が継続するかを注視する」と語った。

第8波については「流行が起こる可能性は非常に高い」と強調。心筋梗塞や脳卒中など救急医療の需要が高まる冬に第8波が来た場合に「医療が逼迫するリスクは高い」と危機感をあらわにした。

新型コロナを巡っては、日本医師会の釜薙敏常任理事が19日の記者会見で「全国で新規感染者数の減少が下げ止まっており、このまま減るといった状況ではない」と述べていた。